男子決勝

二宮			47		合		計		51			葛飾					
	11			1		P			10								
	13			2		P			8								
	15			3		P			15								
	8			4		P			18								

〔評〕決勝戦、葛飾中対二宮中。立ち上がり葛飾中は⑱遠藤を中心としたインサイドからの得点で始まった。一方、二宮中はなかなかシュートが決まらず苦しいスタートとなった。しかし、その後連続の3Pで葛飾中に追いつき、11対10と1点リードして前半を終える。2Qに入り、葛飾中のファウルが増え、果敢に攻め始めた二宮中が得点を重ね、24対18で前半を二宮リードで終了した。3Qに入り、6点差を追いかける葛飾中は、ポストプレイを中心に攻め、リバウンドを粘り強く取り3Pを決めるなど、徐々に点差を縮める。二宮中は④伊藤や⑧中新井田のアウトサイドからのシュートで終始リズムを崩さず3

20×20

Qを終えた。4Qに入り、葛飾中は④石井の連続シュートで2点差に追いつめ、その後一進一退の攻防が続く中、葛飾中は試合終了間際に⑱遠藤のポストプレイやリバウンドシュートで逆転に成功し勝利した。一方の二宮中も最後まで粘り強く戦い、あきらめず戦った姿に会場から大きな拍手がおくられた。

20 × 20